

SIDR

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第1巻第19号

第32週(8月6日～8月12日)

発行年月日:平成13年(2001年)8月22日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～4類)

感染症類型	疾患名	報告数 (32週)	累積報告数 (1週～32週)
1類感染症	報告なし	-	-
2類感染症	細菌性赤痢	1	3
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	32
4類感染症	アメーバ赤痢	0	3
	急性ウイルス性肝炎	0	2
	後天性免疫不全症候群	0	3
	ジアルジア症	0	1
	梅毒	0	1

2) 定点把握の対象となる4類感染症

疾患名	定点当たり患者数		
	32週	増減	26～31週の平均
インフルエンザ	0		0
咽頭結膜熱	0.50		0.94
A群溶連菌咽頭炎	0.19		0.26
感染性胃腸炎	0.90		0.94
水痘	0.29		0.70
手足口病	0.29		0.33
伝染性紅斑	0.13		0.25
突発性発疹	0.44		0.33
百日咳	0		0.01
風疹	0		0.01
ヘルパンギーナ	1.67		3.67
麻疹	0.06		0.14
流行性耳下腺炎	0.94		1.12
急性出血性結膜炎	0		0
流行性角結膜炎	0.86		0.74
急性脳炎	0		0
細菌性髄膜炎	0		0
無菌性髄膜炎	0.14		0.07
マイコプラズマ肺炎	0.29		0.34
クラミジア肺炎	0		0
成人麻疹	0		0

* 増減は、26週～31週の平均に対する今週との比較
増加 減少 変化なし

* 太字は、今週の注目される疾患です。

3) 今週のトピックス

患者情報

滋賀県における定点当たり患者数について、26～31週の平均と32週を比較すると、突発性発疹、流行性角結膜炎、無菌性髄膜炎に増加傾向が見られます。また、感染性胃腸炎、無菌性髄膜炎、A群溶連菌咽頭炎、伝染性紅斑、突発性発疹の報告数は前週(31週)より増加しています(2～3ページのグラフ参照)。

その他の情報

突発性発疹について

乳児期、とくに6～18カ月の間に罹患することが多く、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とするウイルス性感染症です。

疫学: 感染症発生動向調査によると、報告症例の年齢は、0歳と1歳で99%を占めています。また、季節性や、年次による差異もほとんど見られません。このような疫学的特徴から、感染症発生動向調査のデータ解析の際に基準疾患として利用されています。

病原体: ヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6)

ヒトヘルペスウイルス7 (HHV-7)

臨床症状: 38度以上の発熱が3日間ほど続いた後、解熱とともに淡紅色～鮮紅色の斑丘疹が体幹を中心に顔面、四肢に数日間出現する。

治療・予防: 予後は良好なので、対症療法によって経過観察する。

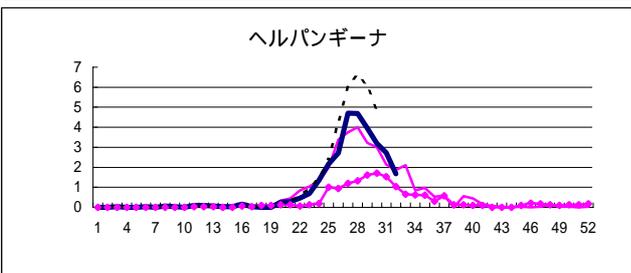
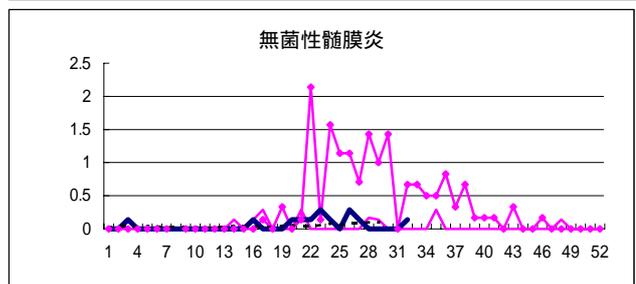
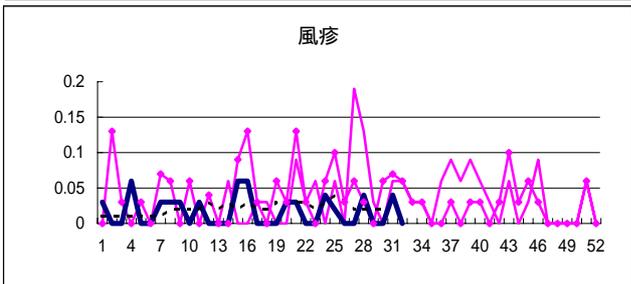
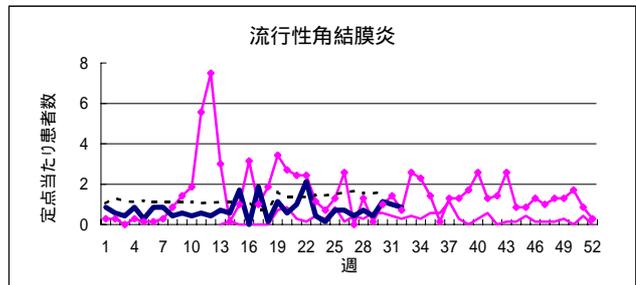
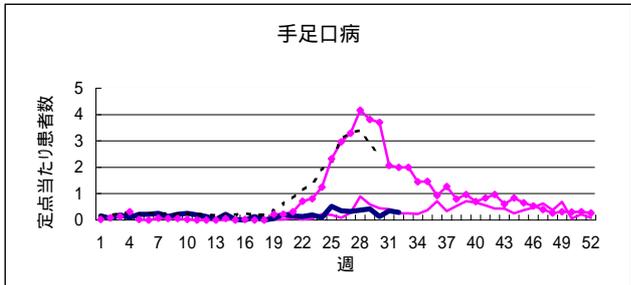
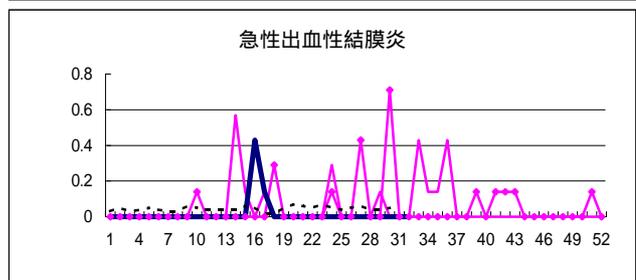
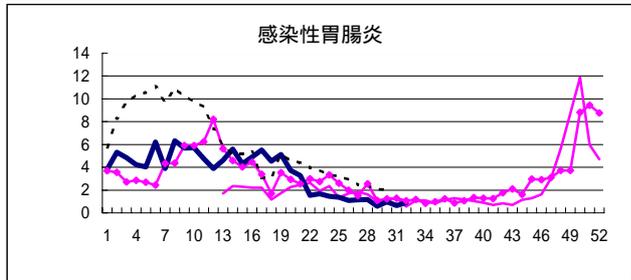
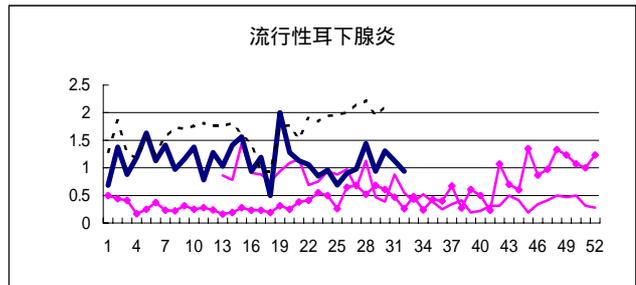
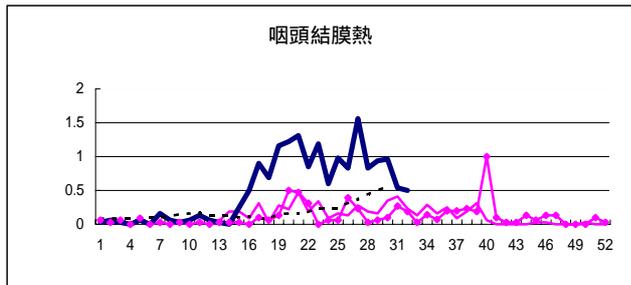
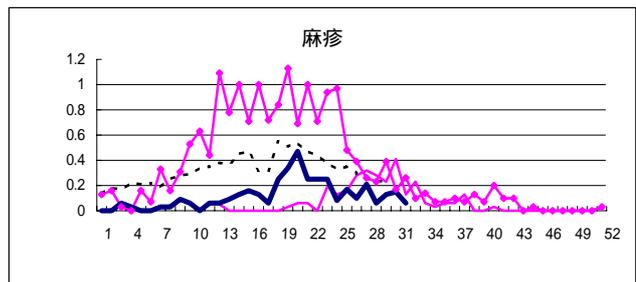
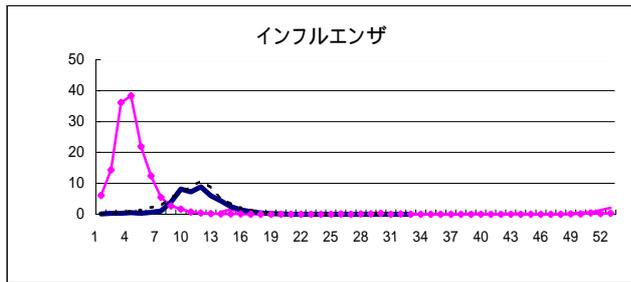
詳細については、下記ホームページのiDWR2001年第3巻第30号の「感染症の話」に掲載されています。



全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**において公表されています。

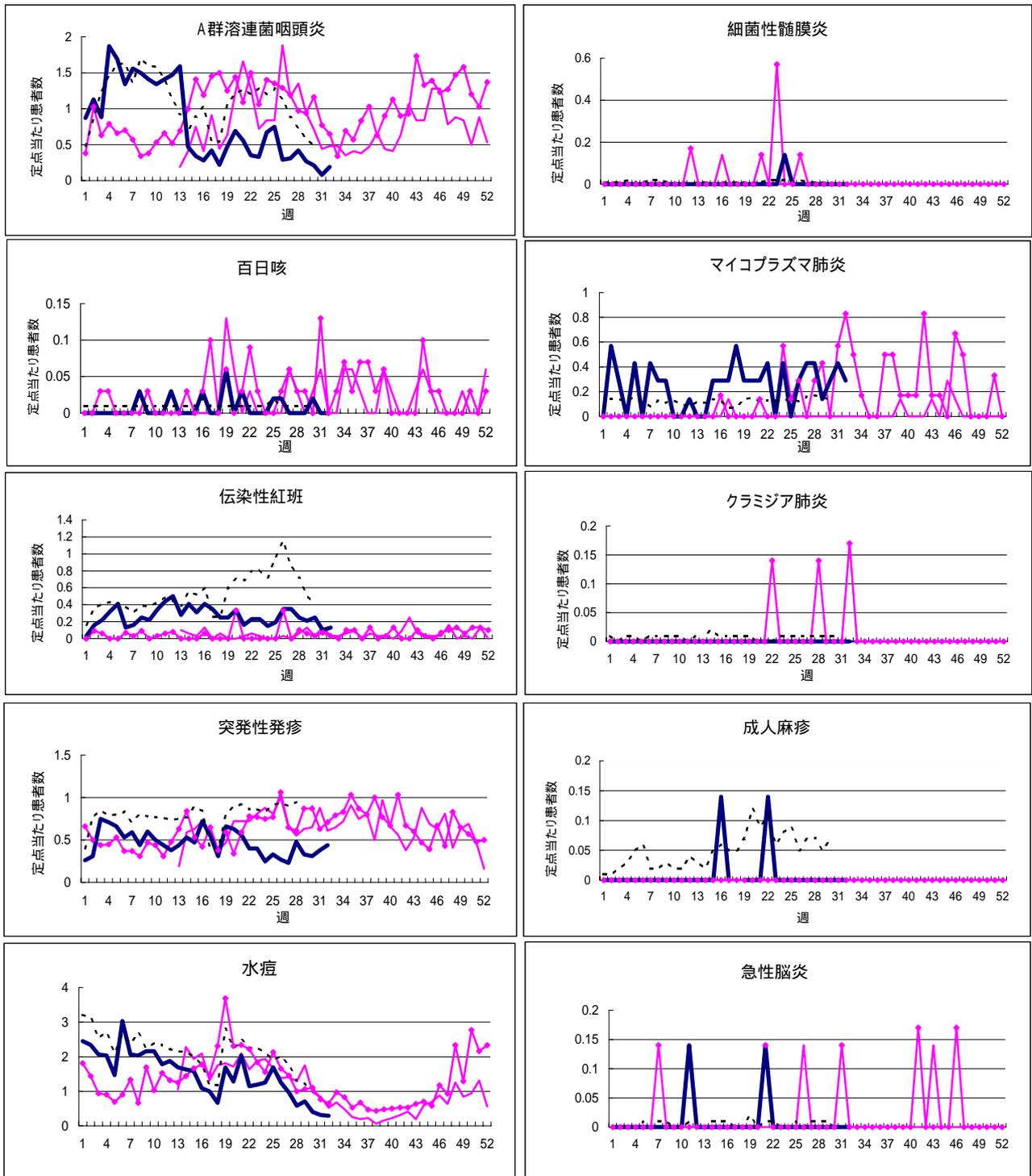
(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)

疾病別定点当たり患者数(平成13年第1週～第32週)



滋賀
 H11 ———
 H12 ●——●
 H13 ———
 全国 H13 - - - - -

疾病別定点当たり患者数(平成13年第1週～第32週)



滋賀 { H11 ————
 H12 ●————●
 H13 —————
 全国 { H13 - - - - -